

87 豊臣秀頼・淀殿自刃の跡

- ▶ 元和元年(1615)5月に大坂夏の陣が起こり、5月7日ついに大坂城が炎上。5月8日、焼け残った山里曲輪の櫓に潜っていた淀君、豊臣秀頼は自刃し、豊臣家は滅亡します。



88 山里門跡

- ▶ 山里曲輪から内堀に掛る極楽橋を渡り、二の丸に通じる入り口が山里口です。ここに山里門がありました。

89 極楽橋

- ▶ 山里丸と二の丸を結ぶ橋で、かつては幅3mの木造橋でした。徳川期の寛永3年(1626)に創建されましたが、慶応4年(1868)の城中大火で焼け落ちました。復興されたのは昭和40年(1965)で、鉄筋コンクリート造りになっています。極楽橋の名称は、石山本願寺の頃、この辺りに橋があったことによるものです。



90 伏見櫓跡

- ▶ 伏見櫓は二の丸で唯一三重構造の櫓でした。
昭和20年(1945)8月14日午後1時頃、アメリカ軍のB29戦闘機145機が、大阪城とその周辺にある軍の施設・砲兵工廠を空襲しました。
そのときの空襲で伏見櫓は破壊されてしまいました。



91 明時代の中国製狛犬

- ▶ 昭和15年(1940)夏、当時中国北部に進駐していた日本軍部隊から、大阪城内にあった大阪陸軍兵器支廠(兵器の修理工場)にあてて、兵器とともに届けられました。
添え書きには「さる高貴な方に献上するように」と書かれていましたが、戦争が激化したため、そのまま姫門跡(No.82参照)に置かれていたようです。
この狛犬是北京郊外から採れる白玉石製で中国の明時代(1368年頃)の作品と見られています。
昭和58年(1983)、中国への返還する動きがありましたが、翌年、日本と中国の友好を深めるためにと、中国は改めて大阪市に寄贈しました。
『中日友好萬古長青』と刻まれた御影石の記念碑があります。



92 北仕切門（高麗門）

➤ この丸及び西の丸から京橋口に通じる門です。



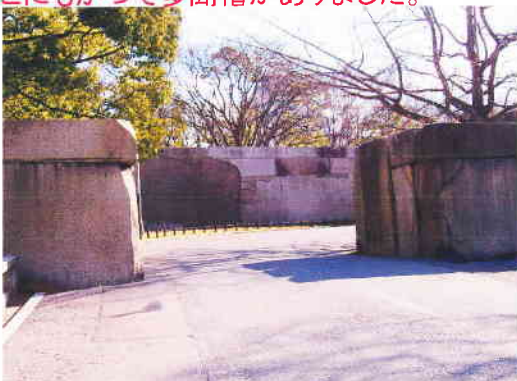
93 焰硝蔵

➤ 焰硝蔵は徳川期の火薬庫です。この中に大量の黒色火薬が保管されていました。元和6年～8年(1620～1622)に創建され、当初は土蔵造りでした。万治3年(1660)、青屋口内にあった焰硝蔵が、落雷により大爆発を起こしたため、のちに工夫がこらされ、貞享2年(1685)に現在の石造りによる焰硝蔵が築造されました。石は花崗岩が使われており、石造りの火薬庫は他に例が無く、貴重な遺構となっています。



94 京橋門跡

➤ 京橋門はこの丸から場外へと通じる門で、伏見櫓(No.90参照)と同じく空襲で破壊されてしまいました。
ここにもかつて多間櫓がありました。



95 京橋門枳形巨石「肥後石」

- ▶ 京橋口には大阪城第2番目の巨石である「肥後石」があります。肥後石は高さ5.5m、横幅14.0m、露出面積が約54㎡です。



<外堀より外側>

96 明治天皇聖蹟碑／大阪砲兵工廠科学分析場の表門跡

- ▶ 明治3年(1870)、明治政府は造兵司を設置し、大阪造兵司、大砲製造所、陸軍造兵廠大阪工廠など何度も名称を変えたのち、大阪砲兵工廠となりました。大阪砲兵工廠は、陸軍直属の兵器製造工場で、大砲などの重兵器、爆弾などを造る施設です。戦争の拡大とともに、ピーク時には64,000人もの方が働いていました。昭和20年(1945)8月14日の大空襲で完全破壊されています。科学分析場は、新しい兵器の開発、研究、化学実験などが行われており、ここはその表門にあたる場所でした。明治10年(1877)2月14日、明治天皇は大阪砲兵工廠を訪れ、工員の作業を巡覧しておられます。明治20年(1887)2月16日の行幸の際も、大阪砲兵工廠の各工場を巡覧しておられます。明治31年(1898)11月15日、陸軍特別大演習の際にも訪れておられます。

